

楓の森アップデート

学校教育目標：夢を持ち 自ら考え よりよく行動できる児童の育成



合志市立合志楓の森小学校
学校だより 第15号

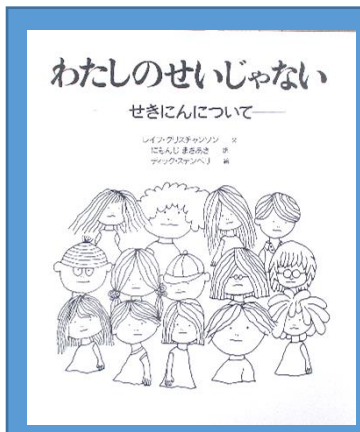
令和5年(2023年)12月8日
文責 校長 佐藤 政臣

人権月間についてパート③

わたしのせいじゃない 絵本 「わたしのせいじゃない ーせきにんについてー」 より

本号では、先号でお知らせした通り、1年生から4年生までの「縦割り人権集会」の様子を掲載する予定でした。

しかし、2年生が学年閉鎖（インフルエンザのため）となったため、「縦割り人権集会」が延期になりました。



そこで本号では、スウェーデンのレイフ・クリスチャンソン著「わたしのせいじゃない ーせきにんについてー（岩崎書店）」という絵本を紹介したいと思います。

その本の翻訳者
(二文字 理明 大阪
教育大学名誉教授)

のあとがきには、次のように書かれています。

あとがき

この本はスウェーデンで生まれたシリーズの1冊です。原著はすでに15冊以上がロングセラーで刊行され、一般書店の他、デパートのギフトコーナーにも置かれています。

広い意味での「人間の生き方」を扱い、日常のふとしたきっかけから深い思索を誘うタイプの内容です。

このシリーズの背景にはスウェーデンの学校で行われている「オリエンテーリング科」という教科があります。人間の生き方を模索しながら、同時に社会の様々な問題にも目を向け、友情、孤独、幸福といった人間関係の大切なテーマが扱われています。

「わたしのせいじゃない」は、このシリーズのなかでもやや特異なシリアスな内容を備えています。いじめの状況と、その責任のなすり合いが描かれ、後半の写真（長崎に投下された原爆、ソマリア難民の子ども、少女を抱きかかえる米兵、タンカー事故で流出した油にまみれた

海鳥、先進国のゴミ捨て場、リベリアの少年兵）は、多くのことを語りかけてきます。

日本でも「いじめ」は深刻な社会問題になっています。事態を改善するために話し合うきっかけとして、教室で、家庭で、この本が活かされることを心から願っています。

引用：スウェーデンのレイフ・クリスチャンソン著「わたしのせいじゃない ーせきにんについてー（岩崎書店）」p.24

この本は、「学校の教室で、ひとりの男の子が泣いています。いったいどうしたのでしょうか。」という文からスタートします。

それに対して、「学校の休み時間にあったことだけでわたしのせいじゃない」・・・「ほんとうはわたしみなのだから知っているのでもわたしのせいじゃない」、・・・「おおぜいでたたいたみんなたたいたぼくもたたいたでもほんのすこしだけ」・・・などといった、責任を転嫁し「わたしのせいではない」と締めくくられます。いじめやその責任について考えるきっかけとして親子で読んで、「あなたならどうする？」などと具体的な行動を考えてみてはいかがでしょうか。

第73回 “社会を明るくする運動” 合志市作文コンテスト優秀賞

12月2日（土）、御代志市民センター講堂において、「令和5年 合志市青少年育成市民会議 青少年教育特別講演会」が開催され、弁護士の大津秀英さんが講演されました。講演会のテーマは、「子ども（保護者）が問われる法的責任」です。

講演は、具体的な判例等を用いて説明されたため、わかりやすい内容でした。

その会の前に、「第73回 “社会を明るくする運動” 合志市作文コンテスト」の表彰式があり、合志楓の森小学校からは、4名中、2名も表彰されました。



優秀賞 「『おかげさまで』にあふれる社会」
6年 石田 日向子 さん
優秀賞 「100まいの羽がおちる前に」
5年 橋口 あかり さん

私も読ませていただきましたが、その人にしか書けない、心に訴えるすばらしい作文でした。受賞おめでとうございます。

学校行事や子どもたちの学習の様子につきましては毎日ホームページを更新していますので、ご覧下さい
<https://es.higo.ed.jp/kaedenomori/>

楓の森小HP

